

大迫町のレクリエーション空間における評価について

岩手大学工学部 正会員 伊藤 昭
 岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一
 岩手大学工学部 ○学生員 伊藤 一夫

1. はじめに

地域の個性作りからの人間居住環境の計画が重視される時代になり、今日、地方都市のレクリエーション空間創出のあり方如何は将来の都市に新しい内容をもたらしうる可能性を秘めていると言えよう。

本研究は 上述のような地域の成長発展過程の認識のもと、今後ますます重要視されるであろう個性豊かな人間居住環境づくりと深くかかわるレクリエーション空間育成のための基礎的調査研究としてレクリエーション資源がどのように評価されているかを明らかにすることを目的とした。

調査対象は北上山系のほぼ中央に位置し、人口8千4百人の岩手県大迫町である。大迫町は早池峰山の秀でた観光資源があり、丘陵と河川はよい自然環境および史跡と社寺など歴史的環境にもあがまれている。しかも郷土色豊かな祭りの保存育成が盛んであるというユニークな要素を有する町である。

2 研究方法

① 調査対象、調査地域および回答者

調査対象は大迫町および大迫町周辺の景観であり調査地域は大迫町全域である。被調査者はランダムサンプリングで選定された大迫町に居住する18才～60才の男女1,018人である。このうち回答者は642人で、回収率は63%であった。

② 調査方法および調査期間

調査方法は、イメージ再生法による。調査内容は、Q1-好きな「ところ」、または好きな「景色」(場所)から見た(対象)は何か。Q2-Q1で書いたものの中で最近10年間で悪くはなって来たと思われるものはどれか。Q3-Q1で書いたものの中で最近10年間で良くなったと思われるものはどれか。Q4-Q1で書いたものの中で最近10年間で変わらないと思われるものはどれか。以上の4項目である。調査期間は、昭和57年8月9日から8月30日までであり、留置調査法で行なった。

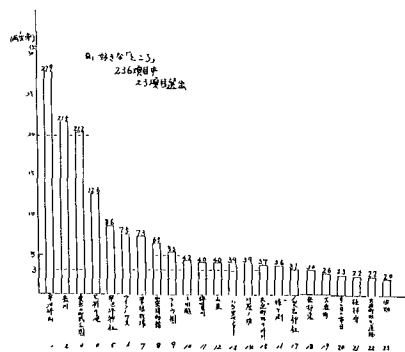


図-1 好きなところとして再生された再生要素

3 集計・解析結果および考察

① イメージ再生された景観の評価

大迫町および町周辺の景観で好きな「ところ」、または好きな「景色」としてイメージ再生された景観要素の総数は、885個にあがった。このうち再生率3.0%以上の要素(「ところ」18個、「景色」9個)27個に注目すると、図-1、図-2のとく示される。

そのうちで再生率20%以上のものを景観特性を考えるうえで特に重要な族にはる要素と考えたパブリック・コア・エレメント(公共コア・エレメント)とする。コア・エレメントは、「ところ」では要素あり、「景色」では2要素ある。特に再生率25%を越える早池峰山においては、「景色」で視対象としての再生率は80.8%にあがった。図-2 好きな景色として再生された再生要素

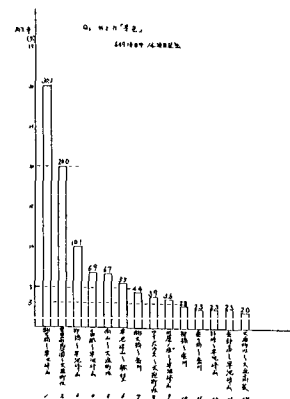


表-1 イメージ再生された景観の変化に対する
評価の検定

第一组	Δ > Δ Δ > Δ Δ > Δ	第一组 第一组 第一组	第一组 第一组 第一组
第二组	Δ > Δ Δ > Δ Δ > Δ	第二组 第二组 第二组	第二组 第二组 第二组
第三组	Δ > Δ Δ > Δ Δ > Δ	第三组 第三组 第三组	第三组 第三组 第三组
第四组	Δ > Δ Δ > Δ Δ > Δ	第四组 第四组 第四组	第四组 第四组 第四组
第五组	Δ > Δ Δ > Δ Δ > Δ	第五组 第五组 第五组	第五组 第五组 第五组

有意差陰定による (絶陰45%)

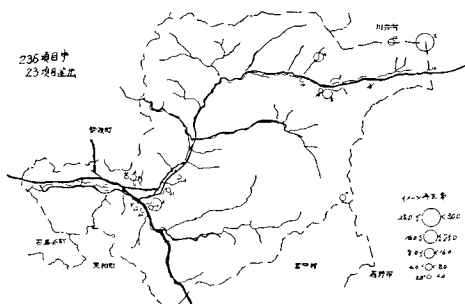


図-3 好きな「ところ」として上げられた要素分布

図-4 好きな「景色」として上げられた要素分布

表-2 イメージ分析により抽出されたおもな大迫町レクリエーション資源の種類

[illegible]

注) 1 人文資源は、歴史性のあるもの(Ⅰ)、ないもの(Ⅱ)に分類した。
2 水質をわいて、その後は、イメージ分析と調査データを基にした。

2 *印を付いて、その後は、イテージ分析を繰り返す。その結果、